



## 大阪部会(第 64 回)

日 時: 2019 年 6 月 29 日(土) 18:00~20:20

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 64 回の出席者は 18 名。

(1) まず、篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、東京証券取引所と共催する「先生のための夏休み経済教室」の趣旨説明と協力依頼があった。また、経済教育ネットワークのホームページを大幅に更新する予定であることと、実践教材のページを充実させる方針であることが述べられた。こちらも先生方の協力が欠かせない。

(2)岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、夏の経済教室の参加申込状況などが示された。また、東証が開発し夏の経済教室でも取り上げられる教材「会社を知ろう! 会社を応援しよう!」の実践が広がっていることが報告された。加えて、実際に授業で使った山本雅康氏(奈良学園中学高校)から、教材への感想が述べられた。

(3)佐藤央隆氏(名古屋市立はとり中学校)より、「歴史から公民を見通す金融の授業~貨幣・金融史から経済のしくみを考える~」が報告された。中学、高校の歴史的分野の教科書から、貨幣・金融に関する箇所を抜き出し、それらを授業の中で公民につなげることを試みた実践である。平安後期の借上、参勤交代、堂島米市場、地租改正、管理通貨制度の 5 つの時代が取り上げられ、いずれも歴史と公民の接点として誰もが興味をいづくテーマである。授業ではまだ取り上げ始めたばかりであり、夏の経済教室で一部が報告される予定である。

(4)下村和平氏(京都府立山城高等学校)からは、夏の経済教室のプログラムに入っている「新テストを視点として授業改善を考える~入試問題を授業にどう活かすか~」と題した報告があった。教科書に沿った授業の大切さ、需要曲線・供給曲線の教え方について述べられた後、自身が実践してきた生徒に考えさせる問いかけ例と問いかけ後の授業展開が紹介された。それらは新テストにも有効で、特別に新テスト対策をしなくても、やるべきことをきちんと教えていれば、対応可能であるとまとめられた。

(5)安野雄一氏(大阪市立東三国小学校)から、「金融教育「未来の運用の仕方を考えよう」~小学校における価値判断・意思決定力を育む学びを通して~」という実践方向があった。小学校 6 年生の生徒に、預金、株式、為替レートなどの経済知識をもたせ、自ら資産運用を判断させ、それらと経済全体との関係を理解させようとしたものである。教師からの情報提供だけでなく、生徒自らの調査・情報交換、そして金融現場にいる社会人からの説明と対話などが組み合わされている。単なる投資教育でなく、多面的・多角的な視点を養う授業構成となっていることが、多くの出席者から評価された。

(6)奥田修一郎氏(大阪教育大学等)から「新しい働き方をめざして」と題する報告があった。奥田氏



の問題意識として、中学校公民分野の労働問題の扱いが不足していること、生活の基盤である労働について、授業でもあまり取り上げられてないことを改善したいと考えられているようである。長時間労働の是正、女性が活躍しやすい労働環境の作り方、正規と非正規の格差問題、外国人労働、AI時代の柔軟な働き方、などをテーマに授業案が作られており、そのうち外国人労働について、前回の大阪部会で配られた「アリンコ国の外国人労働問題」があらためて紹介された。

(7)山本雅康氏(奈良学園中学高校)は、夏の経済教室で「大学入試共通テスト試行問題などの入試問題を使って思考力判断力表現力を身につける授業の実践」の報告が予定されており、主要部は前回の大阪部会で報告された。今回は、それに追加して、授業で使った新テスト問題が紹介された。問題で問われている解答だけでなく、解答にいたるステップを踏めるように、細かく問題を追加し、生徒が考えながら着実に解答に近づくように設計されたワークシートが紹介された。

(文責 野間敏克)

次回開催予定：2019年9月28日(土)、時間は18:00~20:00、場所は未定。